

2020年卒
Vol.10

8月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2020 学生モニター調査結果 (2019年8月発行)

採用選考解禁から2カ月が経過し、2020年卒業予定者の就職採用戦線は着実に収束に向かっていく。8月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は9割に迫る高水準だったことがわかった。そのほか、就活継続学生の動向や、就活方針の変化など、最新の調査データを紹介したい。

1. 8月1日現在の内定状況

- 内定率は88.2%。7月時点(84.0%)より4.2ポイント上昇
- 前年同期実績(85.5%)を2.7ポイント上回る
- 就職活動終了者は全体の80.8%。前年(78.5%)を2.3ポイント上回る。継続者は2割弱

2. 就職活動継続学生の動向

- 選考中の企業は平均1.4社。受験予定を合わせた持ち駒企業は2.6社。月を追うごとに減少
- 今後の方針は「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく」が最多
一方、「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」が7月より増加
- 企業を探す手段は「就職情報サイト」84.6%、「求人票」34.6%、「新卒紹介」29.5%の順

3. 再チャレンジ(受験)したい企業の有無

- 再チャレンジが可能なら「再度受験したい企業がある」継続者32.6%、就職先決定者16.0%
- 「優遇策があるなら再度受験したい」を合わせると、決定者の3割近くに上る

4. 就職活動方針の変化(3月調査との比較)

- 就活開始当初の方針と、実際の進め方で乖離。当初方針よりも絞って活動
- 「気になる企業はとりあえずエントリー」「セミナーにたくさん参加」は予定より減少
- 「事前に業界を絞って活動」「学業を優先して負担のない範囲で活動」は増加

5. 就職決定企業のインターンシップ参加経験

- 就職決定企業のインターンシップへの参加経験者は40.1%
- 参加時期は「8月」が年々増加。早期に接点を持った企業に決める傾向

調査概要

- 調査対象 : 2020年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答者数 : 1,178人(文系男子387人、文系女子350人、理系男子306人、理系女子135人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2019年8月1日~6日
サンプリング : キャリタス就活2020学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

1. 8月1日時点の内定状況

8月1日現在の学生モニターの内定率は88.2%と、極めて高い数字が出た。今期の内定率は前年同月を上回るペースで上昇してきたが、この8月も引き続き前年(85.5%)を上回った。企業の採用意欲は後半戦になっても高い状態が続いている。先月調査(7月1日現在)の84.0%から1カ月の伸びは4.2ポイント。選考解禁から2カ月が経ち、就職戦線はかなり落ち着いてきている。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは87.4%。モニター学生全体を分母にとると、調査時点で就職先を決定して活動を終了した者の割合は77.1% (グラフは次ページ)。複数内定を保留しているなど未決定である者(3.7%)を合わせると、終了者は8割を超える(80.8%)。一方、活動継続者は「内定あり」(7.5%)、「内定なし」(11.8%)を合わせて2割弱(19.3%)。

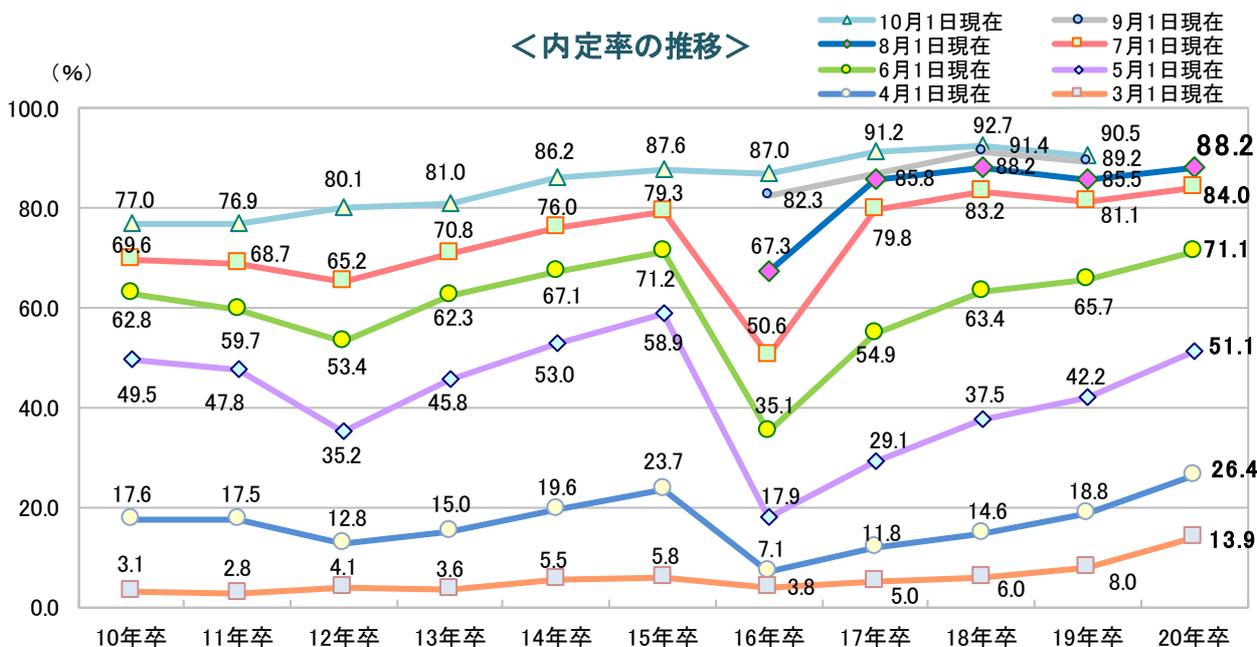
<8月1日現在の内定状況>

*「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		88.2 (85.5)	83.7 (83.7)	91.1 (86.3)	87.6 (86.4)	94.8 (85.7)
内定なし		11.8 (14.5)	16.3 (16.3)	8.9 (13.7)	12.4 (13.6)	5.2 (14.3)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	87.4 (88.3)	83.3 (86.3)	86.5 (88.4)	92.2 (89.7)	89.8 (90.0)
	活動は終了したが複数内定保持	3.0 (2.5)	4.6 (2.7)	3.4 (3.1)	1.1 (2.1)	1.6 (1.7)
	進学などの理由で就職活動を中止	1.2 (1.0)	0.9 (0.8)	0.3 (0.8)	1.9 (1.7)	2.3 (0.8)
	就職活動継続	8.5 (8.2)	11.1 (10.3)	9.7 (7.7)	4.9 (6.6)	6.3 (7.5)
		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.3 (2.3)	2.4 (2.3)	2.4 (2.3)	2.1 (2.2)	2.0 (2.2)

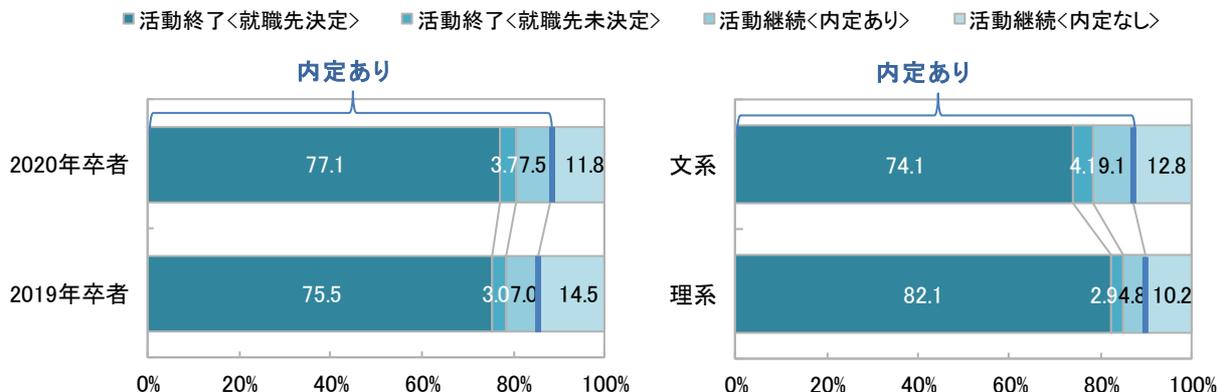
※ () 内は前年(8月1日現在)の数値

<内定率の推移>



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~19卒は6月 ※15年卒以前は8月、9月のデータはなし

<活動状況の分布(2カ年/文理別)>

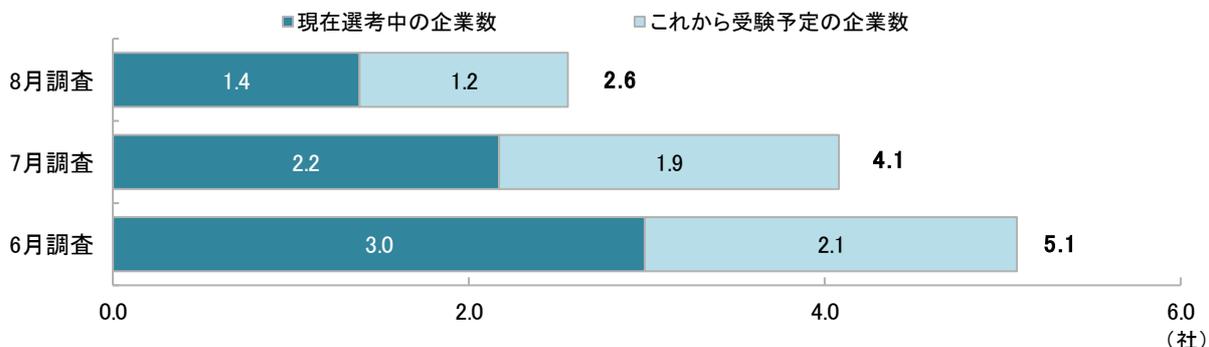


2. 就職活動継続学生の動向

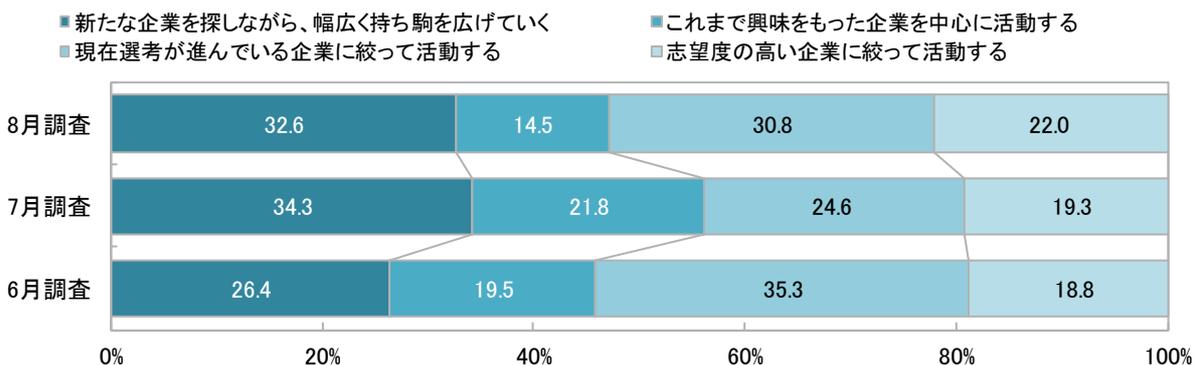
内定保持者も含め、8月1日時点で就職活動を継続している学生（モニター全体の19.3%）の、現在選考中の企業数は平均1.4社。これから受験予定の企業数1.2社を足し合わせた、いわゆる持ち駒企業数は2.6社。先月（4.1社）に比べ1.5社少ない。持ち駒企業は月を追うごとに減少している。

今後の方針・戦略を見ると、「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく」が7月調査よりやや減少したものの、3割を超え依然最も多い（32.6%）。一方で、「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」が増えており（24.6%→30.8%）、この1カ月の間に選考が進み、就活終了が近い状態になった層も一定数いることが読み取れる。

<8月時点の持ち駒企業数>

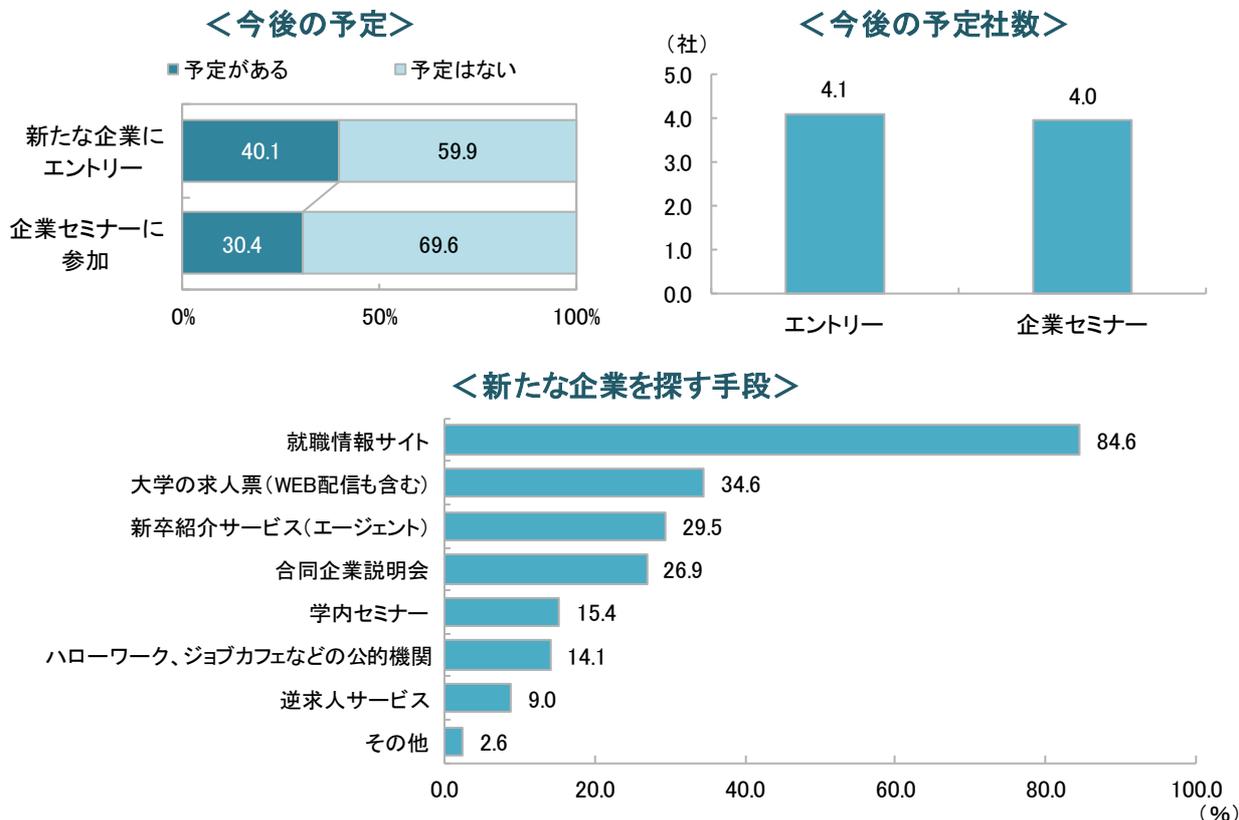


<今後の就職活動の方針・戦略>

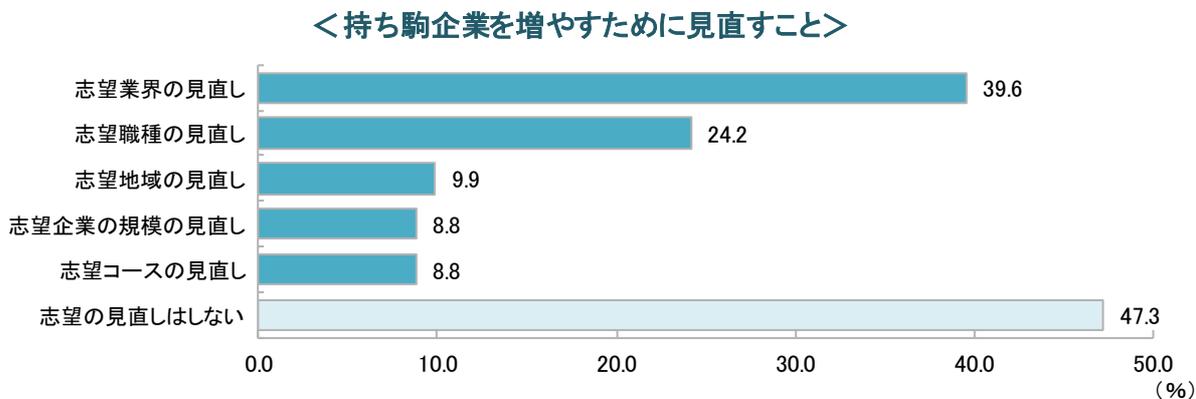


今後、新たな企業へのエントリーを予定しているのは継続学生の4割 (40.1%) で、予定している社数の平均は4.1社。企業単独セミナーについては、参加予定がある学生が30.4%で、予定社数は4.0社。継続学生の中には夏採用や秋採用に意欲的な学生も少なくない。

新たな企業を探しているという学生に、企業を探す手段 (ツール) を尋ねると、「就職情報サイト」が圧倒的に多く (84.6%)、「大学の求人票」(34.6%)、「新卒紹介サービス」(29.5%) と続く。



今後見直すことを尋ねると、「見直しはしない」が最多という結果になった (47.3%)。最初の志望にとらわれ、うまく方向転換できない学生の姿が透けて見える。何らかの見直しをする学生の中では「志望業界の見直し」が最も多い (39.6%)。



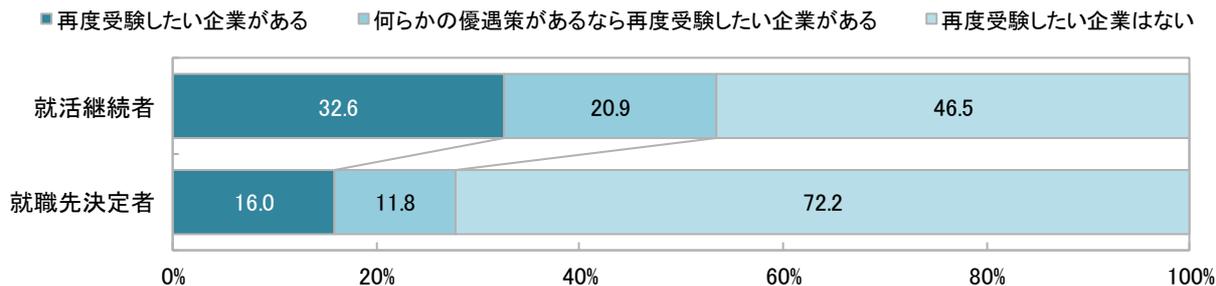
■就職活動継続学生の声

- なかなか内定を得られずに立ち往生している。 <文系男子>
- 内定は既に持っていて、ここから別の業界に広げていく段階に入っている。 <理系男子>
- やっと自分に合うと感じられる企業を見つけられるようになった。 <文系女子>

3. 再チャレンジ（受験）したい企業の有無

これから秋採用のシーズンを迎えるが、ここまでの就職活動で不合格または選考途中で辞退した企業のうちで、再チャレンジが可能なら受けたい企業があるかどうかを尋ねてみた。就活継続者の 3 人に 1 人 (32.6%) が「再度受験したい企業がある」と回答し、「優遇策があるなら」(20.9%) を合わせ過半数が再チャレンジへの意欲を見せた。就職先決定者になると大きく減るものの、それでも 3 割近くに上った (計 27.8%)。本命だった企業をもう一度受けてみたいという学生もいるのだろう。

＜再チャレンジしたい企業の有無＞

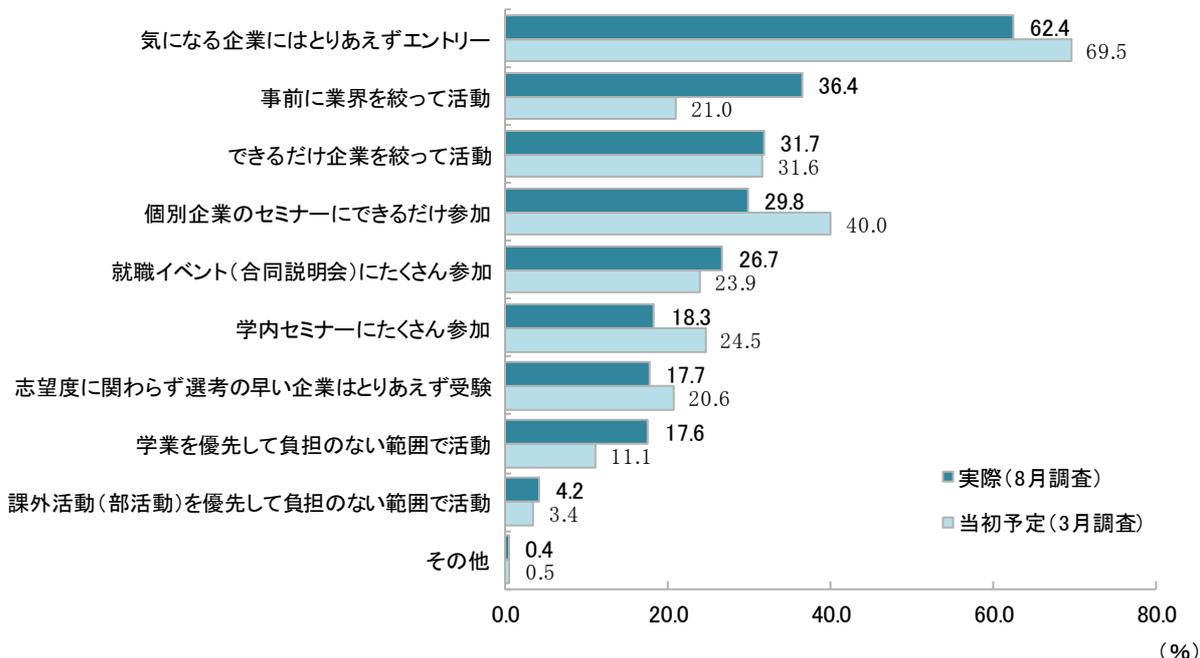


4. 就職活動方針の変化 (3 月調査との比較)

モニター学生全員に、就職活動をどのような方針で進めてきたかを尋ね、今年3月に調査した当初予定と比較した。最も多かったのは、どちらも「気になる企業にはとりあえずエントリー」だが、当初 69.5%→実際62.4%と、7.1ポイント下がった。また、「個別企業のセミナーにできるだけ参加」は10ポイント以上減少した。

逆に、「事前に業界を絞って活動」は15.4ポイント増加 (21.0%→36.4%)、「学業を優先して負担のない範囲で」が6.5ポイント増加しており (11.1%→17.6%)、当初の予定よりも実際は絞って活動した傾向が見られる。3月以降のスケジュールが過密だったことや、早い時期から順調に選考が進んでいたことなどから、思ったほど多くの企業を見ることなく就職活動を進めた学生が多かったようだ。

＜就職活動の方針＞

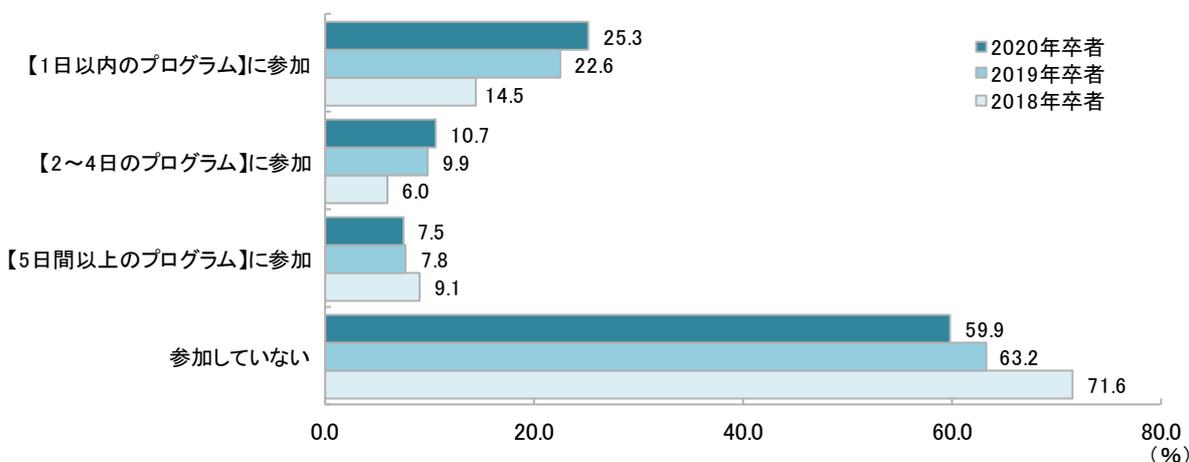


5. 就職決定企業のインターンシップ参加経験

就職先として決定した企業のインターンシップ参加経験を尋ねた。「就職決定企業のインターンに参加していない」という学生は約6割で (59.9%)、残りの4割 (40.1%) が参加経験を持っていた。参加経験者の割合は年々増加しており、インターンシップへの参加をきっかけに就職先として本命となるケースが増えていると言えそうだ。

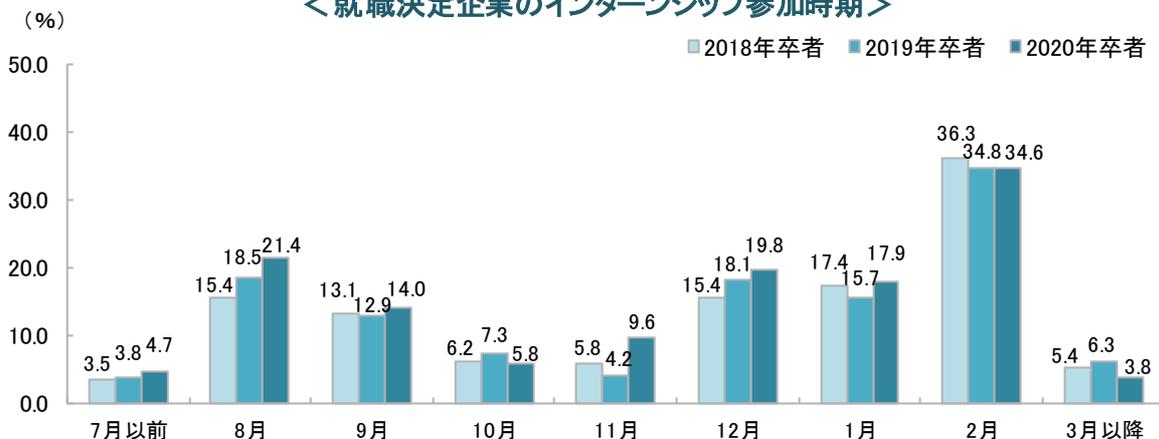
日数ごとに割合を見ると、「1日以内のプログラム」に参加したという回答が25.3%と、前年 (22.6%) よりさらに増えた。2年前 (14.5%) に比べると10ポイント以上の増加となる。「2~4日のプログラム」もやや増えた (9.9%→10.7%)。

＜就職決定企業のインターンシップ参加状況＞



就職決定企業のインターンシップ参加時期を複数回答で尋ね、3カ年の推移を調べてみた。いずれの年も「2月」が最も多く、就活解禁直前のインターンシップで志望度を高める学生が多いことが読み取れる。一方で、「8月」のポイントが年々増えるなど、早い時期に接点を持った企業に決める傾向も見られる。なお、複数月を選択した学生は21.2%で、前年調査 (14.6%) を上回る。2回以上参加した後、選考を受け、就職決定に至る学生が増加していることがわかる。

＜就職決定企業のインターンシップ参加時期＞



○インターンシップ等に参加することで、採用の門戸が開いていると感じる。 <理系男子>

○時間がある時にインターンで色々な業界を知り、そこで興味が出た業界を目指せる環境はとても良いと感じた。 <文系女子>